

# めだかの学校だより

令和2年2月1日  
第107号  
学舎：周智郡森町一宮  
「一宮総合センター」  
事務局：静岡県磐田市  
家田 529-20  
TEL:0539-62-6691

## 校長訓話

第一〇七回 校長 高田 正人

私は今、68歳です。経歴の概要です。農業高校卒業後農業に従事。温室メロン栽培40年、茶栽培20年、水稲栽培49年従事してきました。現在市議会議員3期目(12年目)になります。農業は、ほとんど妻に任せています。

また、議員になる前に青年団・消防団・PTA・保護司・農協役員等を経験し、その経験が自分の考えの源になっています。なんといっても農業から多くを学びました。

農業は自然を相手にする職業です。自然に逆らわず自然の法則を学び実践することが大切です。それがなかなか難しい。農業書に書いてあるとおりにやっても上手くいかないことが多い。色々試行錯誤し経験から学んできました。多くの失敗をし、失敗からも多くを学びました。大切なことは、作物を良く観察すること、考えることが大事です。一番効果があるのは、先輩の篤農家のまねをすることです。温室メロンは、今は、休作していますが、40年栽培して来て、年に4作メロンが

収穫できるので160作(回)栽培しました。この160作(回)のうち本当に自分で満足できたメロンが収穫できたのは、1、2作だったと感じています。難しいからこそやりがいがあります。メロンに限らず農業者は自分の栽培する農産物に誇りを持って、日夜、品質向上に励んでいます。多くの農業者は農協等の品目別の組織(部会)に入会し、栽培技術を学び合っています。組織の仲間は、ライバルでもあり、困った時の相談相手でもあります。農産物は良いものが多く収穫できた時が利益が多い訳ですが、市場価格が安い時もあります。また、産地間競争やブランド確立に組織で取り組んでいます。

また、組織に属さず個人ブランドで農業経営を確立している農業者もいます。近年は大規模個人農業者や農業生産法人が増加し家族農業者や中小規模農業者が減っている傾向です。国は、大規模農業者、農業生産法人に国の農地の8割を耕作してもらう目標を立てていますが、まだ実現していません。企業の農業、大規模農業で高所得農業を国は推奨していますが、これだけで日本農業を守れません。なぜな

ら、農地は小さい面積や段差のある農地等もあります。これらの農地に適した作物があり、家族農業、中小規模農業に向いています。今、農産物直売所が賑わっていますが、直売所を支えているのは、大規模農業者ではなく、家族農業者、中小規模農業者です。直売所は多品目の農産物が必要です。彼らは、適正な規模で栽培し、毎日朝、新鮮な野菜を直売所に出荷しています。直売所で会話や情報交換することで生きがいと健康づくりにもなっています。

最近、政府は、大規模農家推奨政策から、家族農業、中小規模農業支援にも取り組んできています。農業者の高齢化が叫ばれていますが、農業こそ生涯できる仕事であると考えます。定年はありません。儲からなくても健康と生きがいがあります。実際は、高齢者が結構収入を上げているようです。

もう一つ言いたいことは、農業、農村が国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、文化の伝承、教育的価値、地域社会の維持、食料安全保障等多面的機能を持つて居ることです。農業は国の基と言われる所以であると考えます。



## めだかの学校伝言板

第107回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／高田正人

教頭／中村やす代

用務員／横山忠志

給食係／大久保陽・村木謙弐・石野省三・中村やす代

牧野久子・大谷香代子・山中幸子・水野忠義

今村純子・植田美智子・平野きよ子

渡辺三ツ子(チーフ)

※お手伝いできる人はぜひお早めにお出かけを！

<学舎> 静岡県周智郡森町一宮「一宮総合センター」

TEL:0538-89-7730 (開校日のみ)

開校日／令和2年3月6日(金) PM 6:20(受付)～  
受付／大場敬子・大橋町代・小林成彦・榊原幸雄(後見人)  
27期通年テーマ：『平成から令和へ、紡ぎ紡いで27年！』  
今回のテーマ：<まるまる令和、時を越えて…の思いとは？>

<時間割>

- 1時間目 理科 長谷川智 先生  
「丘浅次郎の知恵とは…」
- 2時間目 家庭科 今村純子 先生  
「旬を食するおかあさんの百年ごはん」
- 3時間目 社会科 村松達雄 先生  
「パナマ運河と荒川(東京)とのつながりは…」
- 給食の時間 ひなご膳? 9:30 閉校

## めだかの動き

# 泳ぎ回るめだかたち

■地域活性化センター発行の「地域活性化のための情報誌」『地域づくりに』1月号で掲載されています

「地域情報誌」は、地域活性化センターが毎月「地域づくり本編」「地域づくり特集編」「地域づくり別冊」、基調論文や各地の事例などを毎月テーマを決めて編集、発行している。今回「めだかの学校」は本編で、全国協議会登録団体紹介「地域づくりの現場から」と、2頁にわたって紹介されている。この情報誌は、全国協議会登録団体や行政、企業など幅広く配布されている。令和2年、新年早々に「めだかの学校」は全国に情報発信されたことになりました。『共に学び一緒に育む 楽しむ心が元気の秘訣』

「おもしろ人立 めだかの学校」は、川の中ではなく森の中にあります。そこは「遠州の小京都」と呼ばれる静岡県森町のどかな町並みの一角に学校拠点があり、9月・12月・3月・6月の第一金曜日が基本の開校日。…年齢層は30〜80代、職業も農林業従事者・議員・アーティスト・主婦など実に多様です。『誰が生徒か先生か?』授業も先生も職員会議を開いて決めます。「めだかの学校の誕生」は今から約30年前に遡ります。4人の言いだしっぺによるその誕生のキッカケや、先生・生徒という上下関係を意識しないで、お互いの人格や技量を尊敬しあうという『基本理念』、めだかの学校は『教育』ではなく『共育』の場という考え、毎年度の申し込み手続きをとらなければ名簿から削除される、「決まり事を守るベースがあつてこそ自

由空間」がある。また『手作り給食』や『特別企画』も多彩と…。

『好奇心と協力の精神は永遠に…』めだかの学校は、一人ひとりがさまざまな好奇心と信念を持って動いている。「あれやってみない?」「これ一緒にやろうよ」といった提案に協力し合いながら企画を実現させてきた。この姿勢で歩み続け、27年に突入した。…この「おもしろ人」のネットワークが地域のパワーとなるのを信じ、めだか生は泳ぎつつける…。

水島加寿代メダカの投稿記事を、いじつては掻い摘んで書きました。うぐん、難しい。ごめん。…と言うことでコピーするのことにしました。(事務局 バラ)

## ■田沢城跡ウォーク

「NPO法人 ひづるしい鎮玉」は浜松市北区引佐町北部、「田沢城跡」の麓のウォーキングを予定しています。「田沢城跡」は標高657メートルの城山にあり、その麓に田沢地区が広がっています。本番のウォークに備えて、田沢地区全体をグルーブで歩いてみました。地元で生活しながら様子はわかっているもその地区の慣習なり社会性などなかなかわかっていないこと、意識していないことがあることに気づきました。田沢地区は谷下田・六反田・竹平・神子川・月木沢・日比平・芋田という各班があり、それぞれの慣習で生活しています。この各班の名称にもその地区の置かれた様子が伺えます。歩く道中、生活の香り、自然環境などを味わいながら進むと充実のウォークが楽しめそうです。

1月26日(日)、NPO応援団の皆さんと、このウォークの方策について現地話し合いをもちました。結果、高校生を中心として「ポケモン」方式で史跡、植物を探しながら歩くことにしました。ぜひ参加あ

れ!

日時:令和2年3月22日(日)9時30分スタート〜12時30分ゴール 集合引佐北部小中学校 持ち物:飲み物・必要に応じて昼食田沢の里に「うどん・五平餅あり」参加費:500円 締切:申し込みは、3月15日、石野省三メダカまで。(石野省三メダカ)

## ■第18回全国まちづくり交流会は、高知県馬路村で!

第18回全国まちづくり交流会は、令和2年6月5日(金)前夜祭から7日(日)の3日間、高知県馬路村で開催します。愛知県足助町での開催を皮切りに全国各地を会場にして開催してきましたが、

「20回で区切りをつけよう」の話が持ちあがり、20回目の内容についても話し合う予定のようです。第18回の内容については今後、詰めてゆくと思いますが、決まり次第ご案内します。ただ第108回めだかの学校の開校日が、6月5日(金)なので悩むところです。

## ■遠州地方の祭りのトップを飾る遠州横須賀三熊野神社大祭!

遠州横須賀の三熊野神社大祭は、4月3日(金)12時の「揃い」から、4月5日(日)の「本祭」まで、3日間にわたって行われる。狭い横須賀街道をきらびやかな13台の祢里が曳き廻る様は壮快です。3人の祭り男がお迎えます。だって。どなたでしょう?。出かけて確認してね。お待ちしてま〜す。

## ■獅子ヶ鼻公園桜まつり!

磐田市北部大平の獅子ヶ鼻公園下の野外ステージでの「獅子ヶ鼻公園桜まつり」は、4月5日(日)10時から野外ステー

ジ広場で開催される。舞台上でパフォーマンスや露店まで出て賑やかです。今年も手投げします。桜満開の下、ぜひお楽しみを!。問合せは豊岡東交流センター0539・62・6669へ。

## ■正士邸お茶摘み交流&コンサート

磐田市大平の正士邸でのお茶摘み交流&コンサートは4月25日(土)午前9時から行われる。近くの茶園でお茶摘みしたり、タケノコを掘ったり、野草を摘んだり。手打ちそばやモチつき、肉を薫製にしたり…と、野趣を楽しむ交流会。おなががいっぱいになったら野外コンサート。今年はどうな曲が聴けるかな。会費は4000円、お土産つき。受付では、水島加寿代メダカとバラメダカ、鈴木厚正さんがこやかに迎えられます。だって。問い合わせは、090・8964・9101鈴木正士メダカへ。

## 『人・ひと・ヒト…だより』

●浜松市の山下智之メダカ。令和2年に寄せて 万葉集 巻五・八二二  
わが園に 梅の花散る ひさかたの 天より雪の 流れ来るかも 大伴旅人  
昨年は賀茂真淵没後250年の記念行事として静岡県郷土唱歌「賀茂真淵」の歌碑を建立し、CDも製作した、だって。  
●藤枝市の小嶋良之メダカ、2020年の言葉メッセージは、広島島長崎を訪問されたローマ教皇フランシスコの言葉を紹介します。だって。  
つねに喜ぶこと たえず祈ること いつも感謝すること  
喜ぶこと、喜びの根底には平和があること、そしてたえず祈ること、真の喜びの根源である神と繋がることのできることに、そ

して神の恵みに報いつづけ、いつも感謝することを願われています。「あなたの今年の言霊は？」。うーん、考えていない。が本音です。ハイ。

●浜松市の長谷川智メダカ。磐田市掛塚出身の生物学者、丘浅次郎の思想をわかり易くまとめ、現代と結びつけながら解説した『人間を考えるヒント ダーウィン紹介者、丘浅次郎の知恵』を、一月一日付で自主出版しました。丘は明治から戦前にかけて活躍した人で、進化論を踏まえて多くの社会、教育評論を書きました。「すべての生物は強みが弱みとなって滅び、人類も例外ではない。」と主張しました。今という環境倫理主義者で、自然の摂理に逆らわずに生き、自由に考えるよう呼びかけました。本は税込みで1650円、県内主要書店とネット通販で売っています、だって。

●東京の菅原歎一メダカ。戦後のあの苦しい時期、日本人が必死に生きようとしていた時は、「自己責任」という冷たい言葉はなかった。勝ち組も負け組もなかった。経済的にはあのころと比べようがないほど豊かになったのに人情がなくなってしまう。かがり火はまだまだ果たすべき役割があると思っています。令和元年の年末にあたり、「一言ごあいさつ申し上げます、だって。そう「かがり火はまだまだ続く！」ですぞ！ハイ。

●磐田市の小林佳弘メダカ。県中西部地域の文化情報誌「NEOパンキン」創刊42年。昨年は臨済宗妙心寺派「瑞雲山見性寺」（磐田市見附）の開山四百年諱「先住師五十年諱記念誌の執筆を依頼され出版。数年来執筆の「遠州の城砦ものがたり」も1000城をオーバー。「遠州地方の禪宗の展開」「故郷の歴史・伝説・昔話」など次世代に伝承するよう努めます、と。年齢87歳を迎えますが頑張りまゝ、だって。

●静岡市清水区の花井孝メダカ。さびれゆく温泉地 寸又峽？そんな温泉地に、「こりやく温泉寸又峽」と名付けて、温泉郷の中の15ヶ所にパワースポットを設けて、地元で伝わる伝説・神話に、七福神めぐりをコジつけて面白い、おかしい、馬鹿々々しい、不思議、楽しい、興味津々をキーワードに、「こりやく」を授ける仕掛けや試作品まで自分の手で造って進めている。「めだか爺じいの挑戦の日々」。新風を吹き込むことができるか、できないのか、地元翠紅苑ホテル望月社長との最後のプロジェクトになりそうだが、と。凄くいい！こちらも爺じいパワー全開！でも、時々身体のことでも考えてね、だって。ハイ。

●浜松市細江町の上嶋裕志メダカ。昨年姫街道未来塾を始めて10年がたち、10年間の瓦版をまとめた『姫街道』を発売。また年末には三方原開拓150周年を記念して『みかたはら』を編集しました。地域の大切な歴史を繋いでいくためにも冊子で残していけたらと思っている、と。

●掛川市横須賀の鳥山剛メダカ。昔、大須賀役場職員の時代に誘致に関わった三五教本部が我が家の近くの小笠山にあります。広大な敷地に開祖殿、鎮魂道場の建物群や太陽パネルなどがあり、地域住民の津波などの避難地に協力してくれています。「三五」はあなない、と読み、神道です。オイスカ高校を経営して信者が昭和41年より東南アジアに農業指導に行っています。今年開教70周年記念で三熊野神社氏子総代7名が招待され、私が代表で記念誌に投稿することになった、だって。

●岐阜県坂祝町深萱の長谷川政夫メダカ。今年古希、70才岐阜県坂祝町深萱の畑の真ん中に、手づくりそばの店を建てて19年目を迎えました。そばで日本を健康に！と、ホームページを作成し公開しま

した。是非見てね！だって。http://sobanosato.net/ そばの里 深萱ふらど 問合せは090・2612・5052へ

●北海道佐呂間町の船木耕二さん。『サロマ湖に生きて80年』、父が残した自伝本です。何も無いサロマ湖畔に祖父と共に秋田から移り住み、小学校を卒業するとすぐ船に乗る。昭和30年代、貧しかったサロマの漁師のために帆立養殖を研究、そして技術の確立と普及に人生の全てをかける。自伝本の中に唯一ある二宮尊徳の言葉「積小為大」まさに父の生き方そのものだった。「令和元年」…平成30年は自分にとって何とかがえのない時代であったか。

「地域づくり」「社会教育」日本各地に出かけてゆき、沢山の人と出会うことができた。出会いの中で自分の浅学さ、狭量さ、未熟さを、そして人間の小ささを気づかせてもらった、と。うーん内容を割愛させていたのだが、お父さんの自伝本とあわせてサロマ湖を見てみたい。人と人との出合いの素晴らしさ、いいですねえ。

●浜松市の鈴木真弓メダカ。今年も東京銀座の美術家連盟会館。6Fギャラリーで、3月23日（月）～3月28日（土）まで、『凸凹展』を開く。近くに来た時には是非寄ってくださいね、だって。前回の時は「かがり火」の菅原歎一メダカがのぞきに行ってくれました。詳しいことは090・8865・6889の真弓メダカへ。

●磐田市の大島たまメダカ。令和2年4月から磐田市文化振興会の理事に。現理事の鈴木亜繪美メダカと小栗華メダカ（結婚して多田姓）は退任。おふたりは磐田市の文化振興に良い意見を述べてくれました。お疲れさまでした。ありがと。大島たまメダカには期待しています、だって。（6年間元副理事長だったバラメダカ）

### 《新人生紹介》

●掛川市の植田美智子メダカ。シンポジウムや季節の草花を育てるのが趣味で、真言宗のお寺を参って月1度写経をやるのが好き。水野忠義メダカのお守り役！。頼みますね。とは。

●磐田市の平野き多子メダカ。人に逢う、外に出る、歌をうたう、いいですね。10月11日の中日シヨッパーの「メダカの学校」の記事をみて入校。早速第107回の給食当番を。

もともと載せたかったのですが、紙面の都合で今回はこれまで…。

### 《めだか春秋》

「昨年7月3日、突然の末期胃がん、すでに周辺リンパ節への転移しステージ4の宣告、そして一か八かの手術、胃の全摘、脾臓、胆のう、リンパ節を摘出、何とか命がつかまりました。そして、そのあと一年間に渡る抗がん剤とその副作用との闘い、輸血などの治療、リハビリを重ね昨年7月に生きて病院を出てきました。

抗がん剤と副作用の苦しみを乗り越えられたのもめだかをはじめ、大勢の仲間たちの応援、励ましのおかげ、皆さんのお力でこの世に引き戻していただきました。そして特別授業に参加、皆さんにお会いできたことは本当に幸せなことでした。これからも命ある限り自分らしく生きてゆきたいと思っています。これからもお付き合いをよろしくお願いいたします。

鈴木武史メダカ

※お知らせ

めだか春秋はリレー形式で、第108回めだか春秋は、喜頼川はつ枝メダカ。

# トピックス

## ■令和2年の初日の出

令和2年元旦、6時30分の3発の花火に誘われて、獅子ヶ鼻公園の初日の出会場へ。家から急坂道を歩いて30分。家を出たのは6時40分、初日の出には間に合わないが、「まあ、いいか」と、妻とふたりでエッチラオッチラ。横を何台かの車が通りすぎる。乗せてくれないかなと思うたら「乗って！」と1台の車が止まってくれた。近くの故佐野蓉子メダカの息子さん家族だった。日の出に間に合った。「ありがとう！」もそこに東の方を見ると、山並みにかかった雲を赤く染めながら10分ほど遅れながら太陽が昇ってきた。大勢の人たちと一緒にバンザイ！と拍手を打って祈念した。いい年でありませうに！。田村進治メダカや宮澤博行メダカ、秋山勝則メダカ、富田久美子メダカら、また多くの知人たちと言葉を交わすことができた。帰りは下り坂、よかったな。 (バラメダカ)



## ■事務局だより

令和2年、若きは若いなりに、老いたり老いたりなりに、心新たに新年を迎えたことと思います。ほんとうに月日の経つのは早いもので、もう「鬼は外、福は内」の声が聞こえています。我が家でもまきましたヨ。

さて、第106回めだかの学校は、令和元年12月5日金曜日、『いったんき』をテーマに開校しました。校長埋田千聡、教頭若尾和孝、用務員別所慶則・校長、教頭ともに音楽好き。と言うこともあって今回の授業は『みんなで歌おう！』に。歌いたい歌、好きな歌をコメントをつけて…を提出課題にして行なった。パプリカ、ふるさと、まっかな秋、日本列島旅ガラス、朧月夜、翼をください、早春賦、赤とんぼ、四季の歌、上をむいて歩こう、なごり雪など62曲が集まりました。やっぱり一番多かったのは「ふるさと」。



郷愁を感じるのでしょうか？。それぞれの思いがコメントされていて面白い。授業では、それらの曲を、埋田、若尾、中村明男、石野裕子の4先生が前もって打ち合わせし10数曲を選曲。歌曲集を配って、埋田校長とピアノを弾きながらの石野先生のリードで大きな声で歌いました。若い頃を思い出して涙ぐむ生徒もいたりして…、1時間の授業が短かいくらいでした。若尾教頭の遠慮気味のギター伴奏も良かった。新入生は平野きみ子さんと植田美智子さんの2人。

今回の給食は、英ちゃん農園高級食材の

えび芋。親芋から孫芋まで使ったのまかにえび芋ずくし。いや〜芋っぱらでございませうばばい。ハイ。(笑)。デザートは、北海道の船木耕二さん差し入れの殻つき力キを蒸した力キの蒸し焼き。三重重ねの蒸し器の鍋底が焦げて蒸し焼きに、だつて。

校長訓話、埋田校長のふるさと佐久間町の、今はなき学校の校庭跡に1本遺っているクスノキに思いを寄せて作詞作曲した「ふるさと」の歌を抒情豊かに歌う。うっとり！。そのまま授業へ…いいねえ。

私語飲食全て禁止の『次回3役発表』。校長高田正人、教頭中村やす代、用務員横山忠志。異色のトリオ？。楽しみですね。いつものように大きな輪をつくっての「今日の日はさようなら」を歌いつつ、令和2年まであと20数日、良いお年を！と再会を約しつつ…。



第107回めだかの学校の職員会議を、令和2年1月9日(木)に学舎で開く。3役揃いぶみで16名が出席。今年はまだまる令和。長谷川智メダカが、1月1日付で「ダウインの紹介者丘浅次郎」を紹介した本を自主出版したこともあって先生に。村松達雄メダカの発明王鈴木藤三郎は？、日本初のウーロン茶をつくった藤江さんは、パナマ運河の建設に関わった青山さんは…。結果は青山パナマ運河に…。もう一人は、今村純子さんのおかあさんの百年ごはん」に決まる。テーマも「まるまる令和、時を超えて…」に決まる。郷土の偉人を訪ねるのもいいね。時を越えて…。

## ■第27期の受付をしています。

第27期は、令和元年9月1日から令和2年8月31日までです。毎年度入校手続きが必要ですが、連絡もなく、手続きもしていない生徒は名簿からはずれ、何人かの生徒は自主退学となりました。新しく入校を希望される方がいましたら事務局まで電話ください。資料と申込書を送ります。

■いや〜今回も遅れてしまいました。いつもお手伝いいたしています石野省三メダカ、伊藤英雄メダカ、田村進治メダカ、本島慎一郎メダカ、水島加寿代メダカありがとう。バラメダカもメールに挑戦中です。まとめてくださる間瀬亮太メダカ、発送などのお手伝い榊原明美さんありがとう！。

## ■めだかの学校だよりの原稿を！

今回の発行は、令和2年5月1日予定。締切4月15日です。みなさんの日頃の活動をお手紙かファックスで。待ってます。メールの方は、

《mabuchi-trd@y.r.tnc.ne.jp》  
間瀬亮太090・5009・0986です。  
(メールの方は割付の関係もあるので「報を」)

## ■めだかの学校の事務局

〒438・0105 静岡県磐田市家田5  
29番地20 榊原幸雄方 TEL 05  
39・62・6691 (FAX 同じ)  
※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一  
宮3150。電話 0538・89・77  
30 開校日の午後4時以降のみ使用可。  
携帯 080・1612・9130

